

■ ロシヤの民衆は三百年の虐政の廢墟の上に新社會組織の礎を築いたが、内外にわたり四年の惡戰苦闘をつゞけた後、更に又今や空前の大飢饉に際會して、酷薄なる自然の前に最後の試練にさらされて居る。

■ 世界各國では諸種の救濟團體が設立され、相連絡して飢えたるロシヤを救ふべく熱烈な活動を開始して居る。獨り日本人のみ拱手傍觀していゝものであらうか？ 我等はあらゆる國家的固陋、民族的偏見を脱して餓死せんとする人々の上に温き愛と同情をそゝき得る日本人でありたい、否世界人でありたい。

■ 大戰の後列國が逸早く撤兵し、封鎖を廢した後にも、我國のみは依然としてシベリヤの曠野に軍隊を駐屯せしめて居る。それは列國の猜疑を増し、ロシヤ人の怨恨を深くする外何の得る處もない。明白過ぎる程無意義な軍である。

■ 軍事的干渉が有害であると共に、經濟的封鎖も無益であるのみならず現時ロシヤの飢饉は天災による外、列國の經濟的封鎖が其被害を甚しからしめた事を思ふ時、無意味な牆壁を一刻も早く撤廢し彼國と自由なる交通を始むる事の急なる知る。

■ 我等は對露非干渉を標榜する。  
我等は飢饉の救濟と、駐頓軍の撤兵と、貿易の開始とを喫緊の問題として全同胞の前に提供し、同志の來り投ぜんことを望んで已まない。

—— 對露非干渉同志會 ——